

第2回 香美町部活動のあり方検討委員会 会議録

日 時：令和7年9月3日（水）10:00～

場 所：村岡地域局3階 301会議室

（出席）

委 員：9名、教育長

事務局：7名

（欠席）

委 員：4名

1 開会

2 あいさつ（教育長）

3 協議事項

（1）「香美町部活動のあり方」アンケートについて

事務局：アンケートについて説明

【質疑応答】

委員：案内文書を誰が出すかですが、検討委員会を通してという方が重みがあると感じます。それからタイトルについては、あり方というのは、ちょっと構えて絵を書くだけのような感じもするので、地域展開に関するアンケートというふうに直された方がいいかなと。それに伴いまして、例えば来年3月頃に部活動の地域展開推進計画を策定する予定ですということを謳った方が、そのための協力が必要で、地域展開の計画を達成するための基礎資料が必要だと書いた方が、明確な目的、協力も得やすいのかなと思います。

議長：今3点ありました。右上のところのあり方検討委員会を加えたらどうかということ。それから、あり方というのは漠然としているので地域展開ということのアンケート名にした方がいいのではないか。それから、もっと具体的に先の分も書いた方がいいのではないかということがありました。これについてよろしいでしょうか？いいですか事務局。

事務局：分かりました。ありがとうございます。

委員：小学4年生からになっているのですが、どのように児童生徒にお願いするのかという事と、小学生は、まず何をしているのか、どうしないといけないのか、何でこれをしないといけないのか、全く分からぬ中で、アンケートに答えるのがすごく難しいかなと思うので、先生が説明してもらう方がいいのか、保護者の方と相談してもらう方がいいのか、そこは考える必要があると思います。

議長：2点ありました。事務局お願いします。

事務局：昨年度はなかなか数が集まらないという現状がありました。今回は、校園所長会でも事前にお伝えして、学校で時間を作っていただくようお願いします。何か説明できるようなものを、改めて考えたいと思います。保護者については、学校を通じて文書の方を配布していただいて、できる限り協力をと考えています。

議長：どちらにしても子ども用と説明する先生用もいるのだろうと思います。

委員：説明はしっかりとないとアンケートの意味がないので、できるだけ分かりやすくしてあげた方がいいと思います。

議長：保護者用と3通りをできるだけ分かりやすく、目指している方向も書いて説明するということをご理解ください。

委員：3点あります。まず1点目ですけど、前回5年生から中学校2年生が対象でアンケートを取られていたのが、今回4年生からに引き下げられているのは、何か理由があったら教えてください。

事務局：前回は、国の指針の令和8年度に合わせるという意味で年齢を計算して行いました。今回はそれが後ろになったのですが、実際アンケートを取る際に、3年生ではやはり理解が難しいのかなと思い、4年生からにしました。

委員：分かりました。アンケートの内容ですけど、質問の投げかけ方が難しいと思います。事前の説明が必要になってくると思います。検討してやってください。

委員：2点目は回答数の話です。前回のアンケート資料を見てみると、あなたが住んでいる地域を教えてくださいという質問の中で、香住区が少なくアンケートの取り方自体に問題があると思います。バーコードを読み取る方法ではなく、学校で時間を設けてもらう方が、事前の説明も対面で話をされる方が理解も得られやすいと思うので、できれば、投げっぱなしじゃなく、学校で時間を取って回答してもらいたいと思います。検討してください。3点目も意見ですけど、この案内文書を裏表一枚見せても、なかなか保護者も含めて分かりにくいと思います。国が出しているチラシだとパンフレットだと、一緒に配布することで、こういう流れになっているということも理解しやすいし、回答もしやすいと思うので、添付資料でそういうものにつけてもらえたならありがたいなと思います。

議長：3点ありました。事務局どうですか。

事務局：アンケートの中身は、この後、一緒に見ていただきます。ぜひご意見をよろしくお願いします。中学生の回答数が少なかったのはまさにその通りで、今回は、校長先生を通じてお願いして学校で時間をとっていただけたらと思います。資料については、こちらも精査して、なるべくコンパクトにして、分かりやすい伝えやすいものを考えさせていただきたいと思います。

議長：3点ありました。4年生の話とかも含めて、できることはするということで聞かせて

いただきました。よろしくお願ひします。それでは、次の協議事項に関して、事務局説明お願ひします。

○小学生用アンケートについて

事務局：小学生用のアンケートについて説明

【質疑応答】

委員：3つ目の項目ですけど、中学校での部活動と、学校の部活ではない地域クラブの活動と、それぞれ分けて考えた方がいいと思います。まず部活動をしたいかしたくないのか。その中で学校じゃない地域クラブ活動をしたいのかしたくないのか分けて考える方がいいと思います。あと、そもそも小学生がどんな活動をしたいか。ここに挙げていること以外でもあるかもしれないで、まず中学校で、何がしたいかということを聞いた方がいいと思います。この4問目の質問だと、習ってないけどしたいことを聞く必要があるのかなと思います。

事務局：では、加えることでいきたいと思います。

委員：私も3つ目の項目で、したくないってなった場合は、子どもたちは参加しないという選択が、中学校でありえることになるのかなと思って。もし、基本的には参加っていうことであればとらなくてもいいと思ったのですが。今していることと、これからしてみたい活動を中心にとって、そのあとに質問を広げていったらしいのかなと思ったのと、部活動、または、学校の部活ではない地域クラブの活動っていうのが小学生はよく分からないかなと。部活は、先輩とかお兄ちゃんお姉ちゃんがいる子はすごく分かると思うのですが、平日に、学校が終わってからスポーツやその他のことをしてみたいですか、みたいに聞いてもらった方が、特に4年生以下は分かりやすいかなと思いました。指導者っていう言葉も、教えてくれる人とかコーチとかの方が分かりやすいなと思いました。

事務局：中学校の部活動は、基本的に強制参加はどこの学校もしていないので、希望によって参加の希望があるかどうか、どれぐらいしたい児童生徒が潜在的にいるのかというのをまず確認をさせていただきたいというのが一つです。この部活ではない地域クラブの活動ですが、先ほど言わされた案をもう一度聞かせていただいてもいいですか。

委員：部活動と、もう一個は、学校が終わってからスポーツやそれ以外の活動の方が説明がしやすいかなと思いました。

委員：3番目、先生によって誤解が出ると思います。中学校での部活動に参加する、部活動っていう言葉があって参加したいっていうふうになったら、これ部活動が残るんじゃないかなっていうふうに。解釈の仕方が。例えばここに参加したいが多くなったら、中学校の部活動って残るのっていうニュアンスを持たれる方もおられる。中学校の部活動はもうなくなるんですね。先には。だから、中学校での部活動っていうよりも、スポーツ活動や文化活

動とかそういった言葉に変えた方が誤解は生じないかなと思うんですけど。これ読んだときに、中学校の部活動という言葉があって参加したいが多かったら、どうこの後処理していくのかなと。中学校の部活動を残していくということになるのかな、いやそんなことはないよねというふうになるとは思うんですけど。この部活動という言葉はない方が。

事務局：部活動は国としては地域に帰すべくスタートしているのですが、例えば二つの学校の部を一つにする合同部活動、これも地域展開の一つです。だから、その部活動という名称や単位を変えるかもしれませんし、そこに教員以外の指導者を入れるという形もあります。ですから、あり方を考えていきたいということです。完全に学校から切り離して、地域で活動を見ていただく。これがベストではあると思っています。ただ現実的に、実際それができるのかどうか、そういうところを探りながらになってます。

委員：その3つ目の質問なんんですけど。これは、何を問いたいのかと。放課後何かしら活動がしたいと思っているのか思ってないのかだけを聞きたいのなら、ここに部活動とか学校の部活動ではないとかそんなものはいらないんだろうし、これを具体的に知りたいんだつたら、中学校の部活動と分けて聞くんだろうし、何を聞きたいかによって。

事務局：放課後に、どれぐらいスポーツとか文化活動をしたいかを潜在的に知りたいと考えています。

委員：中学校の部活動とか地域のクラブとか、そういうのを取っ払って放課後の時間帯に何か活動したいですか。

委員：放課後だけでなく土日も絡むんですよね。

事務局：土日も絡めて、夏休みもです。放課後や休日にスポーツや文化活動に参加したいですか。で、どうでしょう。

委員：その方が。

委員：たださっき言われた、部活はなくならない方向に変わっているんで。そこをどうするかですよね。小学生に対しては良いと思うんですけど、そこから上の人たちに対してね。特に中学生、保護者なんかは。先生もそうですし。

事務局：3つ目の文言は、2つに分けずに。あなたは、放課後や休日にスポーツや文化活動に参加したいですか。ということで。

事務局：ありがとうございます。

委員：私が子どもに書かせるときに、一番下がすごく困るなと思って。一週間でどのぐらい参加したいですか。こう文字で入っていると、子どもたちがなかなか理解が難しくて、他の質問みたいに、月火水木金土日ってしてもらって、できるところに丸してもらうとか、夏休みとか入れてもらったら、子どもたちにも分かりやすくなると思います。

事務局：夏休みとか、冬休みもいりますね。ありがとうございます。

議長：部活動が地域展開に変わっていって、もう全員入部制ではおそらくなくなる。もう一つは、参加日数などは、運営母体と保護者、子どもとで考えることになってきます。どこに参加するかは、今後、運営母体が出てくる答えかなと思ったりはするのですが。そうなってきたときに、参加しませんが出てくる可能性もある。それも想定しています。

委員：下から2番目と3番目は、とりあえずとられるアンケートでいいんですね。土曜日、日曜日は少なくとも地域に帰すということは決まったということでしょうか。

事務局：それを決める会議だと思っています。

委員：質問の5つ目以降は、問3の参加したいという人のみにかかる気がするんです。であれば、問3で参加したくないと答えた人が、問5以降に答えるのが有効な回答になるのかどうかという気がするんですが、こんなことできるか分からないですけど、問5以降は問3に参加したいと回答した人に質問です。にされた方が出てくる回答が責任あるというか、参加したくない人がこの問5以降に回答するのは、ちょっと無責任な回答になるかなという気がして、そこは分けて考えた方がいいのかなと思いました。

委員：参加したくないって書いてたけど、これだったらしたいっていう。参加したくないっていう人の中での意見みたいなものを聞かないと分からないから。

事務局：集計は分けることができますので。

委員：分けれたらいいかな。

議長：では、このパターンで。今既に中学生の中にいろんな習い事で動いている子もいます。でもこれを考えたときに、この中に入れられるかどうか。そんなことも地域展開の中に入れていくかどうかというのは非常に難しいです。また入ってきた情報を伝えしながら進めていかなくてはいけない。頑張って、子どもの実態がわかるものを作りたいということをしておりますので、ご理解いただけたらと思っております。

委員：もう一点教えてほしいです。下から4つ目の、あなたは平日に参加している部活動とは違う種目に休日参加できるとなれば賛成ですか。この質問の意図がわからないんですけど教えてもらえますか。

事務局：例えば平日ウィークデーは、送迎の問題とか移動の問題で、今ある既存の部活動などに参加をするんですけども、土日祝日に限っては保護者の送迎等が可能なことも含めて、その学校にはない活動をいろんなところから集まってするというパターンが考えられます。今学校にはない団体を立ち上げたときに、普段はバレーボール部なんだけど、土日だけサッカーの活動をしたいとか、そういう可能性を探るという意図があります。

委員：今後の話になってくると思いますけれども、実は僕今ジュニアクラブのコーチをしておりまして、平日に参加してる子と休日だけしか参加しない子との指導がすごく難しくな

るだろうなというふうに。やっぱり技術の差が生まれてきたりだとか難しくなってくるだろうなという思いがしています。とりあえず意図は分かったんで、このままで結構です。

事務局：以前教職員にとったアンケートでもその問い合わせに対する答えがすごく多く、通年見る生徒、他校から休日だけ来る生徒、この差がすごく出るだろうというのはあって。ただ、このあり方の検討の中に、子どもたちに機会を与えてあげたいという一つ大きな目標があったので。

委員：とにかく部活動を中学校から外そうというところがあるんじやないかと思うんですけど、だから参加の仕方というか、別にクラブチームでもいいですし何だっていいんですけど、もう1回確認させてほしいのは、香美町の場合は、部活動のあり方って、合同チームも含めて残っていく可能性もあるという解釈というか、そういうような理解でいいんですかね。

事務局：それも含めて考えていただきたい。皆さんで意見を共有したいということです。

委員：最初は来年8年度から、とりあえず土曜、日曜は地域にというふうなことだったと思うんですけど、それも含めて土曜も日曜もやっぱり学校が関わるというのがまだ残っているという。

事務局：それも含めて考えさせていただきたい。

委員：もし、土曜、日曜が地域にとなったら、どのタイミングで決まるか分からないですけど、決まってから地域でとなると、時間的に8年度に間に合うのかなと思ったりしたんですけど。考え方方が理解できたんでその方向で考えます。

事務局：いや、8年度にはやるとは言ってないので。8年度から13年度の間に次改革期間ということで国の方から示されてますので。8年から10年の間を前期として、そこでは、土日には部活展開には着手するようにというのが今、国から出されているものです。

委員：学校がまだ残っていく可能性もある。中学校がしていくことも残っていく、可能性としたら。

事務局：可能性としてはゼロにはしてないです。

委員：それをここで協議することで、言いすぎかなと思います。

委員：他の市の資料見させていただいたんですけど、部活動っていう言葉が具体的に残るるややこしいかなと思います。他の市みたいに部活動じゃない活動の中に部活動があつたり、その他の地域展開の活動がぶら下がっているっていうイメージの方が。部活動っていう言葉を取っ払って、地域展開の名称があって、その下に部活動もありだし、地域展開もありますよっていうイメージの方が、まずそこを分かってもらう方がいい気がします。部活動と地域展開は別ですよというイメージがでちゃうかなと。

委員：先ほど、差があつては困るということがあつたんで、アンケートの中に、例えば、大会を目指す子と、レクリエーションでする子の希望のアンケートみたいなものをつくるてもいいかなと思ったんで、そのへんはまた事務局で考えていただいて。

議長：考えたら考えただけいっぱい出てきます。もう都会の方は、プロ野球チームに入りたいからそこでする子もいれば、レクレーションの子もいる。それを同じ部活でやる。それが、学校が絡むか、地域で見てもらえるのかと。もっと言つたら、ここで何かが起きたときに誰が責任取るのか。それが運営母体なんです。運営母体が残念な事に香美町には作れていないです。自治体の規模でNPOが出てきてこれを仕事にしてくれて、いろいろ会議をしてくれる人が、残念だけど今のところないので教育委員会がその代わりをしているというのが現実。ほとんどのところがそうです。だから、これから先一つ一つあり方検討しながら進めていきたいなと思います。

○中学生用アンケートについて

事務局：中学生用のアンケートについて説明。

【質疑応答】

委員：基本、小学生と同じでよいかと思います。

委員：一ついいですか。あなたは部活動に入っていますか。で入っているに丸をしたら、今現在何に入っているか、それを問うた上で次に行つた方がいい。現在バレーに入っているけど、野球がしたいとかあるかも分からないので。

委員：他のクラブなんかに行っている子はそれですよね。今部活に入っているけど、野球やサッカーに行っているのは。

委員：基本的に小学校での問いかけと、中学校も同じような形で表現するかどうかの議論はどうですか。私はそれでも構わないと思うんですけど。

議長：中学生は頭には描きやすいですよね。今の活動は。どうですか。

事務局：特に不都合なければ、基本この形で、今言った点を修正して、また皆さんに見ていただくということでよろしいでしょうか？

○保護者用アンケートについて

事務局：保護者用のアンケートについて説明。

【質疑応答】

委員：2つ目ですけど、例えば小学校の保護者のパターンと、中学校の保護者のパターンでは、以下の問い合わせに答えるパターンが変わってくると思って。例えば4番だと所属している部活動になってるんですけど、これは中学生を想定した問い合わせなんで。小学生と中学生では

違うと思うんで。お手数かもしれないんですけど、保護者は、小学校の保護者用、中学校の保護者用にしてもらった方がいいのかなと。

委員：小学校中学校に子どもがいる保護者に向けては小学校用と中学校用を作ると。

議長：2回する必要があるってことですね。

委員：まあ、それぞれ違う活動をしている場合では、思いが違うかもしれない。

事務局：兄弟で違う部活に入っている場合のために複数回答可能にしています。だからバレーとバスケに丸がつくみたいな思いでいます。

委員：じゃあ、次の問い合わせも複数回答可能ですね。

事務局：そうですね。これも複数回答にしないと、兄弟で違う活動している場合もありますので、ピアノして陸上している子も意識して。5番も複数回答にします。

委員：休日にという、6, 7, 8ぐらいにあるんですけど、平日パターンもあるのかなという、平日と休日が別々になるパターンを考えたら、例えば休日限定になってるんですけど、平日のパターンもあるかなと。

委員：例えば、平日はバレーしてるけど、休日は他のことをしたいとなった場合というパターンもあるかなと。あと12番目の部活動が地域展開された場合お子さんの送迎は可能ですか、も。平日だったら可能とか、平日の夕方の時間は無理だけど夜の時間はとか、時間帯によっても違うのかなと。ややこしいんですけど。

事務局：時間帯の夜と夕方は考えてみます。

委員：最終的なゴール地点を考えたら、いろんなパターンがあり得るのかなと。そこは聞いたほうがいいと思って。

委員：一ついいですか。休日の活動とかにさせたい、できればさせたいとか賛成反対とかあるんですけど、記述はできるんですよね。文章は、アンケートに。できるんであれば一番最後にその他何かあればを。変わっているんでね、パターンが。前回は土日だけ地域移行、今回はそうじゃない。多分、保護者も先生も意見が変わってくる。もし記述できるのであれば、そこには理由が欲しいですし。一番最後に何かあればを。

事務局：はい。分かりました。最後に、何かありましたらの項目を作ります。

委員：9ページ目の上から二つ目の、家族の誰かが指導者やボランティアでという問い合わせけど、多分指導者は無理と思われる方が8割9割なんだろうと想像をしています。けれども、支援とかだったら可能という人もおられると思います。ということを考えると、回答の選択肢に指導者として可能だと、支援者として可能だと、不可能だとわからなかつてされた方が、いい解答がえられるのかなと。

委員：最後の質問ですけど、地域クラブを開始する場合という結論が、一斉でするという想定でいたんですけど、部分的にする場合も取られると考えますので、文中か見出しの前に、一斉でとかという趣旨の文言を設けるのが一つと。それから最後のしなくてよいというのは、しなくてもよいという答えよりも準備ができ次第という、年度を聞いてるんだからこの方が。

委員：最後のいつからっていうのは何が聞きたいのかなというのがあるんですけど、中学校の部活動からしたら3年は絶対かかるんです。1年生の子に、このバレーボールは来年度なくなるけど、入る、入らない、って1年の入部の時に言ってやらないとだめだから。その子たちのことを考えたら、新たに決まったときから3年後まではキープしてやらないといけないので、これは何を聞くのかよくわからないんですけど、中学校側からしたらこういったことの指導についてはしてやらないといけないと思います。

事務局：このあり方検討委員会の中では、スケジュールを組むというのが一つ大きな目標になります。その中でどれくらい地域クラブ活動について町民の中の希望があるのか。

委員：実際は、中学校の子たちの指導に関してはそうしてやらないと、せっかく入ったのに、なんだなくなつたみたいのはいけないなと思います。これはこれでいいです。

事務局：分かりました。ありがとうございます。

○教職員用アンケートについて

事務局：教職員用アンケートについて説明

【質疑応答】

委員：上から4つ目を教えてほしいんですけど、部活動が地域クラブに展開された場合、指導者として関わりたいですか。で、地域クラブに展開された場合の指導者として関わるときには、もう学校職員としてじゃないですよね。

事務局：はい。学校職員ではないです。

委員：一個人としての関りでよろしいですよね。先生たちに答えるときに。

事務局：はい。そうです。

委員：下から3つ目の、この費用ってすごい難しいなと思って。中学校の先生だったら、だいたい1年間でどれくらいかかっているかイメージがつきやすいのかなと思うんですけど、小学校の職員はなかなか、費用って自分の子どもの習い事ぐらいしかわからないのかなと思って、これ、難しいなと思います。やる種目によって多分金額は違うと思うので、答えづらいなと思って。

委員：上から4つ目の質問で、地域クラブに展開された場合指導者として関わりたいかの回答で、多分負担に思われてる先生が多いと思うんですけども、サポートがあれば関わり

たいという人も中にはおられるのかなと思って、それがやや関わりたいのなかに含まれるのかなと思うんですが、具体的に回答の選択肢があった方が伝えやすいかなって。

委員：ややという言い方を、例えば条件が揃えばとか、サポートがあればとかね。

事務局：事務局からで申し訳ないんですけど、学校の先生が指導者になっていただけると、人材不足のなか大変ありがたい。ここはもうちょっと具体的に、指導者として関わっていただけの方に対して、平日ならOKなのか、休日だったらOKなのかとか、指導者になるに際しての不安はあるかみたいなところも、もうちょっと細かく聞けたらという思いをもちました。

委員：指導者のことなんんですけど、小学校の職員も指導者ということに不安が大きいと思うんですけど、先ほどの保護者のアンケートの時と同じような感じでボランティアとか、条件付きなら可能だという職員もいるのかなと思って。もしかしたら回答で関わりとかも前向きに考えられるかもしれない。

事務局：では、先ほどと同じように、指導者として可能。ボランティアなら可能、条件付きだと可能と。

委員：保護者と教職員の所で、例えば、指導者で関わりたい人の持っている資格とか聞くと、より意味があるかなと。指導者としての資格みたいなものを。

委員：今、審判出すじゃないですか大会行くと。資格がないとできないんですよね。

委員：もし、資格を取ればしたいとか、今、生涯学習課で資格取得の補助を出してもらっていますけど、そのへんのところも考えると、資格を聞いたりとか、資格を取る費用がネックになったりしているとかあるかもしれないで、そのへんも聞いた方がいいと思います。

委員：多分これから資格いるようになりますよね。この間送られてきましたスタートコーチの。たぶんこれを見通してかなと思うんですけど。

委員：中体連とかではない大会に出ようと思ったら、その連盟なりの資格を持った人じゃないと、たぶんできなくなる。

委員：小学生の大会はそうですね。バレーも野球も全部ね。

委員：資格を登録するのにお金いりますし。更新料もいります。

委員：香美町、今、助成ありますよね。

事務局：はい。生涯学習課の方で。

委員：前回アンケートを取られて、その結果が何かに生かされてるのかというところで。生かされてるところが少なければ、アンケートの結果がどうであれ、地域展開をこうしていく形にはなっていくかなと思うんですけど。あと、この結果が多分こちらでしか見ない。

保護者もその結果がどうなったかもわからない。実際、地域の方もわからない状態でこっちだけの話になって。子どもたちに返してないと保護者にも返してないので。このアンケート取るのも大事かなと思うんですけど、その後も物理的にやっぱりさっきあつた人材がいないと、できないっていう部分があるので。例えば、資格持ってるとか、何か見れる画像があるとか、教職員に見たいっていう人に、先に話を聞くじゃないんですけど、当たってた方が、募集を開始して募集期間がどれくらいかなというところと、結局募集して、なければ、多分話がなしで終わっちゃうので、そうなったときに物理的に難しい点が出てくるかなと。地域の特性というか、人がいないとか、場所がないとか出てきたりすると思うので、先に、人がいるのかなっていうところをある程度見積もっておくというか、実際に動いている子は動いていたりするんで、指導者がやっぱりいないとというところと、このアンケートが、結果見られて、今、なるほどっていうぐらいのを、その結果を、この一年間で、どういうふうに見られて検討されたのかなっていうところを教えていただけたらなと思います。

事務局：昨年度、一昨年度のアンケートを、実際に地域移行協議会の中で使いながらというような話はしていたんですけど、やはり不十分だったと考えています。公表もできていません。今回アンケートはしっかり公表しますし、やっぱり基礎資料としてこれを使いながら、検討材料にして、皆さんの合意形成を図っていきたいと考えています。できれば、ちょっと人材確保にも繋げたいなという思いはあるんですが、それよりもまずは基礎資料、地域展開に向けて我々がどう進んでいくかの資料にしたいという思いが一番強いです。そこからまた課題が出てきたら、一つ一つクリアしていく必要があるのかなと。

事務局：指導者不足にはなるんですけども、このアンケートに1時間でなんぼっていうような対価は記入してないです。対価を入れることについてどう思いますか。指導者として出ていただいた一般の方、教員の方、1時間なんぼっていう、今一応示されている時間給っていうのがあるんですけど、そこにいれるっていうのは。

委員：無償じゃないというのは。1時間なり仕事、早く切り上げて行かなければとなったときに、そこの補填分があるのかないのか。

委員：出されたら、ずっと永久的にあれじゃないので。豊岡なんかはもう、ある程度の所で、それもなくなるっていうふうな話で、報酬が。

事務局：報酬があるというのは前提です。報酬の表現をまた考えます。

議長：それではアンケートについて、聞かせていただきました。それをまた生かして、早急に作りますので見てください。

(2) 次回協議事項について

議長：それでは次回の協議について事務局の方よろしくお願いします。

事務局：では、検討委員会のスケジュールです。9月中にアンケートを実施して、その後検証を加えまして、なるべく早いタイミングでまた皆さんにアンケート結果をお渡ししたいと思っています。10月10日を目途にアンケートの結果をまとめて郵送させていただいて、10月末には次の委員会をまた持たせていただければと思います。の中では、ある程度事務局としての考え方等もお伝えできる、そのような準備ができればと思っております。よろしくお願いします。

議長：それでは、今日の協議事項はこれで終了しますので事務局の方にお返しします。

4 次回開催日

事務局：次回の開催日ですが、令和7年の10月末ということで、また連絡をさせていただければと思います。よろしくお願いします。

5 閉会